

廃止措置等基盤研究・人材育成プログラム
平成 26 年度終了（F S 課題）事後評価総合所見

<p>研究課題名；廃炉に関する基盤研究を通じた人材育成プログラムー福島からの学際的な チャレンジ</p> <p>研究代表者（研究機関名）；佐藤 正知（福島工業高等専門学校）</p> <p>再委託先研究責任者（所属機関名）；高田 英治（富山高等専門学校）</p> <p>研究期間及び研究費；平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月 7 百万円（F S 課題）</p>	
項目	要約
1. 研究の概要	<p>廃炉に関する基盤研究・人材育成に関する高専機構の連携を目指し、福島高専が全国の高専と協議を進め、21 高専から運営委員が参加する「廃止措置人材育成高専等連携協議会」を発足した。</p> <p>また、基盤研究として、熱履歴計算と実験による建屋（コンクリート）劣化診断、格納容器材料の劣化診断、中間貯蔵への除染土壌の運搬を事例とする住民のコンセンサスを得る説明方法の調査検討、高線量に適用できる小型半導体放射線計測、の 4 件のテーマについて研究を行い、うち 3 件を日本原子力学会においてシリーズ発表した。</p> <p>さらに、基盤研究を支える基礎学力の必要性から、「廃炉と社会（15 回）」と「廃炉工学（15 回）」の 2 講義を 27 年度に開講し全国高専に配信すべく、シラバスを作成して担当者を決定した。</p>
2. 総合所見	<p>長期にわたる福島第一原子力発電所廃炉への基盤研究・人材育成の継続において高専の役割は大きく、福島高専がハブ的役割をなし、全国高専の横の連携が構築できたことは高く評価できる。</p> <p>その成果の一つとして、廃炉に関わる基礎学力を育てる講義を、全国高専で協力して準備し、共有できる仕組みを準備できている。</p> <p>また、実施した 4 件の研究は、それぞれ予備検討として十分な成果を得ており、基盤的研究としての展開が期待された。</p> <p>以上のように、短期間ながら優れた成果が得られており、福島高専を中心とする全国高専・研究機関連携により、今後、廃炉に関わる有望な人材育成と基盤研究が期待できる。</p>